

(仮称) 八戸ブックセンターの施設概要 (案) について

1. 目的

市が実施している赤ちゃんを対象とした「八戸市ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」に続き、主に大人を対象とした本のセレクトショップ「(仮称) 八戸ブックセンター」を開設し、これまで手に触れる機会が少なかった本に出会える場の創出という、本に関する新たな公共サービスを提供することで、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指す。

また、中心市街地に知的好奇心を満たす場であるブックセンターを開設することで、来街者の増加と回遊性の向上を図り、中心市街地の活性化にもつなげる。

2. 施設概要

(1) 方向性

本を読む人を増やす、本を書く人を増やす、本でまちを盛り上げる

①本を読む習慣がある人に対して

➤ 新たな分野の本と出会う機会を創出する

②本を読む習慣がない人に対して

➤ 本と出会う場に誘う魅力的な空間（居場所）づくりを創出する

例：静かに本が読めるカフェの併設や魅力的な生活雑貨の販売

(2) 機能

➤ 提案型・編集型の陳列による本の閲覧スペースの提供と販売

➤ 本を中心としたイベントの開催

例 1：八戸の大学や専門学校などを中心に、ときには全国から講師を招き、本を軸にアカデミックなトークショーを開催する。

例 2：「ビブリオバトル」のような形式にこだわらずに、八戸発の「本を勧めあうイベント」を、少人数で開催する。

例 3：書店員さんや市民の皆さんが選んだ本や作家をテーマにして、月1回読書会を開催する。
本は民間書店で購入してもらう。

➤ 市内民間書店の情報発信・連携企画

例：3か月ごとに作家を決めて、市内書店や図書館でフェアを展開し、ブックセンターで読書会を開催し、作家に感想を伝える。

➤ その他、本に関する公共サービスの提供

例：「〇〇について知りたい」という質問に、「〇〇の〇〇さんが詳しいですよ」「〇〇大学の〇〇先生が研究していますよ」と案内できる人（「まちのブックコンシェルジュ」と呼ぶ）を、ジャンル別に登録し、紹介する。



施設イメージ（下北沢（東京都）B & B）

3. 整備予定地

（1）場 所

住 所：六日町 14, 15, 16-1, 16-2, 17（株式会社江陽閣が建設予定の複合ビル）

フロア：2階（面積約 90 坪を市が借上）

（2）選定理由

- ・来街者に居心地のよい快適な滞留空間が形成されることが期待され、当地区の整備計画である「(仮称)三日町六日町街区にぎわい拠点整備基本構想」のコンセプトと合致する。

【にぎわい拠点のコンセプト】

- 居住者や来街者にとって魅力的で、生活を豊かにするサードスペース（居場所）の創出
- はっちや周囲の民間施設をつなぎ、文化・芸術活動等が融合する洗練された空間の創出
- 小路、ヒト、情報が交わる空間として、地域コミュニティの再生に寄与する拠点の創出

- ・三つの拠点がそれぞれに特有の魅力的な空間が創出されることで集客力に相乗効果が生まれ、当該地区に多様な来街者が訪れることが期待される。

はっち・・・・・・・・・・自らが主役になれる活動の場
三日町にぎわい拠点・・ゆったりした時間を過ごす憩いの場
ブックセンター・・・・知的好奇心を満たす場

4. 今後の予定

27年度 具体的な事業内容の検討

28年度 内装等工事、供用開始（夏頃）